

卒業生 就業状況調査（報告）

令和6年4月30日現在

対象 卒業後3年経過者 令和2年度卒業生（2020年9月卒～2021年3月卒生）
 卒業後1年経過者 令和4年度卒業生（2022年9月卒～2023年3月卒生）
 実施期間 令和6年3月19日 発送 ～ 令和6年4月20日 締切

	幼児教育	心理	子ども発達	総合福祉	管理栄養	大学院	計	回収計	回収率	未着	
卒後1年 発送数 (令和4年度卒)	64	128	19	26	60	7	304	/	/	11	
卒後3年 発送数 (令和2年度卒)	32	72	25	24	49	6	208				
学科別 発送数	96	200	44	50	109	13	512				
回答 手 段	卒後1年 郵便	7	8	1	3	2	0	21	46	15.1%	3
	卒後1年 HP	7	11	0	2	5	0	25			
	卒後3年 郵便	6	1	3	1	3	2	16	28	13.5%	8
	卒後3年 HP	6	5	0	1	0	0	12			
学科 回答計	26	25	4	7	10	2		74	14.5%	11	
学科別 回収率	27.1%	12.5%	9.1%	14.0%	9.2%	15.4%			14.8%	2.1%	
卒後1年 回収率	21.9%	14.8%	5.3%	19.2%	11.7%	0.0%		郵便到着者による割合			
卒後3年 回収率	37.5%	8.3%	12.0%	8.3%	6.1%	33.3%					

■ 調査結果より

- ・ 年度末・年度始めにかけて調査を実施し、卒業生の就業状況の継続・転職などの変化について、より正確な状況を知り得る時期を選んで3月～4月にかけて実施した。
- ・ アンケートの回収率／令和2年度35.6%、令和3年度19.4%、令和4年度18.5%、令和5年度14.5% と減少傾向。
- ・ 実施当初の質問は、就業継続・転職の有無と、学生就職課が卒業生の相談も受け付ける旨の認知をはかる目的で当初質問数が選択制3項目程度であったが、質問数が増えて令和5年度においては質問数が記入式も含め9項目となったことから回答数が減ったと思われる。
- ・ 今回の調査では、アセスメントプランに沿うべく在学中の学びがどのようなところで生かされているかを問う質問を設けて実施した。
- ・ 学生就職課が卒業生も相談できることへの認知は、卒業前ガイダンスでの説明とプリント配布の工夫に取り組み、認知度が徐々に高まってきている。
- ・ 回答者における就業状況は、学びが直結している専門職が多数を占めていた。離職状況も3年前の卒業生を含め大学26.1%、短大19.2%であり、厚生労働省による大卒の3年以内離職率32.3%から下回っていると考えられる。
- ・ 離職経験者による離職理由として、職場の人間関係や職場の将来性に不安を感じる事が最も高かった。
- ・ 在学中のキャリア支援を振り返る質問においては、ゼミや専門科目および教養科目が大きな割合を占め、専門科目担当教員からの指導・アドバイス・経験談によって知識と技術の定着に学びの実感を得ていた。
- ・ 就職活動については、各学生がやりたいことを見出し、自己分析により将来像を考えることこそ職業選択とマッチングに役立つことが大切であり、採用試験への対策として面接対策が有効であることが示された。これは面接対策を受けた者、受けずに受験した者の両者による声が結果として反映されたと考えられる。

※ 本調査の結果や卒業生からのご意見を大切な声として受け止め、今後の学部学科における指導において、学生の価値観を理解し、卒業だけを追い求めるのではなく、入学目的の達成と各自の将来像を実現させるべく履修と課外活動に教職員が的確に指導・支援・アドバイスを提供することがディプロマポリシーの達成につながることを再認識できた。卒業生の皆様に感謝申し上げます。

以上